

## 令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	浜松みをつくし特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	小学部99人   中学部43人   高等部115人   合計 257人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	巧技台ワイド
使用学年及び人数	小学部 1～6年生   99人
使用頻度	遊びの指導、体育科、自立活動、休み時間など毎日
使用状況	<p>低学年では主に、遊びの指導や休み時間での使用が多い。特に遊びの指導では斜面台をステップ台と組み合わせて、すべり台として活用している。</p> <p>高学年では、巧技台ワイドセットを設定した「のびのびルーム」を活用し、休み時間や体育科の授業で使用している。ステップ台、梯子、平均台バー、斜面台を組み合わせて周回できるようにし、サーキット運動として活用することが多い。</p> <p>どの学年も、休み時間になると児童が自由に使用し、身体を動かすことができている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>現在も巧技台ワイドセットを3階「のびのびルーム」に常設している。常設されていることで、休み時間などの自由時間に、児童が自由に使えて身体を動かすことができている。巧技台ワイドセットは、組み立て式なので、部品ごとに取り外すことができ、移動することもできる。使用頻度の高いすべり台や、跳び箱だけの使用も可能であるため、主にすべり台は低学年に、跳び箱は高学年の体育科の授業時間に多く活用されている。</p> <p>比較的コンパクトに設計された巧技台であるため、体育館のように広い場所が使用できないときも、物がない普通教室にすべり台や跳び箱、平均台バー、梯子を設置して使用できる。そのため、場所を選ばずに児童が身体を動かすことができるようになった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>場所を選ばずに巧技台で身体を動かすことができ、児童の身体の使い方や体力づくりに役立てることができている。コンパクトで、教員が持ち運ぶことができることで、体育科の授業はもちろん、自立活動の時間や遊びの指導など、様々な授業で活用することができている。使用2年目となり、児童が繰り返し活用するようになって、児童自身が梯子から落ちないように気をつけようと慎重に梯子を渡る姿が見られるようになった。児童の成長を促している。</p>
その他 希望や所感など	<p>毎日活用でき、大変役に立つものを寄贈していただいたことに感謝しています。</p> <p>本当にありがとうございました。一層児童が身体を動かすことができるように、教員が工夫して身体能力の向上に努めたいと考えています。</p>

## 2. 活用の様子

### 1 低学年児童 設定遊びでの活用の様子(梯子、ステップ台、斜面台をすべり台として)



### 2 高学年 休み時間の様子

